

## 令和元年度大川市総合教育会議 会議録

令和2年1月30日、大川市役所大会議室において、令和元年度大川市総合教育会議を開催した。出席者及び会議の経過並びに結果は次のとおりである。

### 1. 開会及び閉会に関する事項

開会 15時00分  
閉会 16時40分

### 2. 出席者

市長 倉重 良一  
教育長 記伊 哲也  
委員 谷川 朋昭  
委員 一ノ瀬直子  
委員 蔵本美保子  
委員 惠崎 浩則

### 3. 事務局等の出席者

市長部局	人事秘書課長	馬淵 嘉臣
	総務課長	古賀 収
	企画課長	橋本 浩一

教育委員会	学校教育課長	石橋 正隆
	学校教育課主幹	古賀美保理
	生涯学習課長	岡 辰磨
	生涯学習課長補佐	岡 美詠子
	生涯学習課長係長	森 悟
	記録者・学校教育課総務係	永島 潤一

### 4. オブザーバー

小中一貫型教育モデル事業推進委員 6名  
社会教育委員 8名

### 5. 傍聴者

5名

### 6. 協議事項

- (1) 新時代における自立した人づくりのための施策について
- ①連続した学びの保障の充実について
  - ②地域とともにある学校づくりの推進について

## 7. 議事

1. 開会 2. 市長あいさつ	
市長	<p>令和となり初めての総合教育会議である。本会議ではこれまで「教育大綱」、「木の香プラン」について協議を行ってきた。</p> <p>今年は大川桐英中学校、大川桐薫中学校の開校、国際医療福祉大学薬学部の開設、有明沿岸道路の開通等、新しいことが始まる年である。</p> <p>本市においては、来年度から10年間を計画期間とする「総合計画」を策定中である。「人づくり」が最重要であると考え、根底にSDGsの思想を取り入れた計画となっている。</p> <p>また、世の中の変化が非常に激しく、特にテクノロジーの進化により、子どもたちが成人する頃には、私たちの常識が通用しないものとなっていることは多くあるだろう。その中で、「知らないもの」と遭遇する回数は私たちと比較して増えていく。そのような中、子どもたちには「知らないもの」を自ら取り入れ、心しなやかに強く生きていく力、「知らないもの」に出会ったときに、心を平静に保てる力が必要となってくる。子どもたちには、成長していく中で、強く生きる力、心を平静に保てる力を身に付けてほしい。また、その土台は義務教育の場面であろう。</p> <p>本日の会議においては、今年新しい中学校が開校するスタートの年であることから、「連続した学びの保障の充実」、「地域とともにある学校づくりの推進」を中心として、具体的な教育の方策について協議したい。忌憚のないご意見をお願いします。</p>
3. 協議事項 (1) ①連続した学びの保障の充実について	
市長	まず、「第2期大川市教育振興基本計画（第2期大川市教育振興プログラム）」について教育長より説明を行う。
教育長	<p>現在、第1期大川市教育振興プログラムの計画期間中ではあるが、来年度より始まる第6次総合計画に合わせ、1年前倒しで第2期大川市教育振興プログラムを策定した。</p> <p>現行プログラムからの変更点は、現行プログラムには大川市教育大綱の内容が入っていないため、大川市教育大綱の内容を（目標1）から（目標4）としてプログラム中にも示している。</p> <p>次に、具体的目標が①から⑩までであったものをいくつか統合し、削除した部分は「具体的目標⑧社会教育の振興」にすべて入れ込んでいる。</p> <p>そして、「具体的目標⑤新時代における自立した人づくり」を新たに追加した。その結果、具体的目標が9つとなり、第1期と比べて1つ減となっている。</p> <p>本日は新たに追加した「具体的目標⑤新時代における自立した人づくり」の主要施策（13）連続した学びの保障の充実、（14）地域とともにある学校づくりの推進について協議をしたい。</p> <p>なお、先ほどの市長挨拶にもあったように、移り変わりが非常に早い時代であるため、本プログラムは10年の計画期間ではあるが、5年経過後に変更する可能性がある。</p>

市 長	<p>それでは、まず、第2期大川市教育振興プログラムの具体的目標⑤「新時代における自立した人づくり」の主要施策(13)連続した学びの保障の充実を議題とする。まずは各委員から提言をお願いしたい。</p>
委 員	<p>来年度より新中学校2校が開校する。特に大川桐英中学校は、大川小学校と併設している。小中一貫校というわけではないにしても、小学生と中学生が同敷地内で勉学に励む中で、うまく一緒に何か活動ができないか考えた。</p> <p>現在も小学校の先生が中学校に異動されるケースもあると聞く。現在中学校ではそれぞれの学校で専科の先生がその学校・学年の生徒に教えている状況。先生によって指導力に差がある中で、生徒は3年間その先生のみから指導を受けているので、学力に差が生じているのではないかと思う。</p> <p>そこで、中学校あるいは小学校の専科免許をお持ちの先生に特定の学校に向向いてもらい、その日はその科目の授業を集中的に受ける、という日を設けてはどうか。そういった活動を継続していけば、平均的に学力が向上するのではないかと思う。</p>
市 長	<p>先ほどのご意見は、大川桐英中学校と大川桐薫中学校においての話か。小学校も対象に入るか。</p>
委 員	<p>小学校も専科を持った先生がおられると思うので、小学校も対象として考えている。</p> <p>例としては、桐英中学校1年生は1日数学の授業、桐薫中学校1年は1日英語の授業という考えで、専科教員を各学校に移動させる。ある先生に指導を受けてわからなかった部分も、別の先生から指導を受けることで理解を深めることに繋がるのではないかと考えた。他にも習熟度別にクラスを分けての指導も合わせることで、更なる結果を生むのではないか。</p>
市 長	<p>大変興味深いご意見であった。次の委員の提言をお願いする。</p>
委 員	<p>一つ目は、中学校の先生のみが専科教員から指導を受けているが、小学校でも同様にできないか考えている。その方が指導方法も専門的で深くなり、授業そのものが面白くなるのが期待できる。先生自身の授業の準備等の事務的作業に割く時間も簡素化されるのではないかと思う。</p> <p>また、先生と子どもとの相性もあると思う。もし、先生との相性が合わないような子どもがいたとしても、1日中同じ先生ではなく、教科によって先生が変わることで、子どもたちもストレスが軽減されるのではないかと思う。</p> <p>また、専科の先生がいたら、飛び級ではないが、本当に興味がある子どもに対しては、学年を超えて学べる環境づくりができ、楽しみが増えるのではないかと思う。</p> <p>二つ目は、宿題を見ると、同じことばを繰り返し書くなど、本当にその宿題がやりたいのか疑問に感じる内容である。繰り返して同じことをするのは大事だと思うが、私の子どもが通っていた学校では、自分が学びたいテーマを自分で決めて、そのことについて調べ、毎日1枚以上のレポートを提出するという宿題があった。子どももその宿題は苦ではなかったと言っていたので、そういっ</p>

	<p>たやり方もいいのではないかと思います。</p> <p>3つ目は試験について、中学校では定期考査が行われているが、単元ごとにテストをして理解度チェックをしてはどうかと思う。そうすることにより、子ども自身が自分の弱点を理解し、その部分の指導を受けることで、理解度が深まるのではないかと思います。</p>
市 長	<p>委員からは、小学校も専科教員から教科別に指導を受ける、宿題については、同じことを繰り返すのではなく、自分が探求したいことを学ぶ、単元ごとの小テストを取り入れてはどうかというご提言をいただいた。これらについても、後程まとめて協議したい。次の委員の提言をお願いします。</p>
委 員	<p>「連続した学びの保障」の部分で、「学びたい、学習したい」という思いを大人になっても持ち続けられるような義務教育であってほしいと考えている。学校で1番人数が多いのは生徒である。しかし学校運営方針等には、当事者であるにもかかわらず関わることがない。「子どもだからわからない」と言われるかもしれないが、子どもを単なる「お客様」として扱うのでは、子どもの持っている力を学校教育の中に生かせないのではないかと。</p> <p>「学習する学校」という本では、子ども自身が学校経営に参加する、例えば自分たちが1年後どのような姿になっていたか、新年度みんなで話し合い、何か問題があればその都度目標を見直し、立て直していく姿が描かれていた。身近では見たことがなく、非常に新鮮であった。その中で、子どもたちは自分たちが何をやりたいか、どうありたいかを考えていた。</p> <p>先生から言われたことに「はい」と返事をする子どもは、大人にとっては都合がいいが、それが子どもにとって本当に「ありたい姿」であるのかどうかが大変重要。</p> <p>日本の子どもは、行儀がよく、規律正しいが、これからの時代を生きていく子どもには、もっと大切なことがあると感じる。折角学校に来ているのだから、人と関わり、経験を積んで、たくさん失敗してほしい。また、失敗を受け入れる学校であってほしい。</p> <p>私自身もだが、失敗したら怒られるのではないかと、周りの反応を気にして委縮してしまうことも多い。先生は授業を教えることも大事だが、コミュニケーションやファシリテーションの技術を磨き、子どもたちを見守る体制で、子どもたちの中にあるものが育っていくことが理想。農業でも「種は自分自身で育っていく」という言葉があるように、自分自身が育っていこうと思わなければ成長しない。</p> <p>先ほどの委員のご意見で出ていた「習熟度別指導」は、私としては少し異なる意見を持っており、なぜ分けなければいけないのかと思う。子どもには教えあう力があり、グループ学習で成果を上げた年もある。先日の林修先生の講話では、「教えることが一番の学びになる」とおっしゃられていた。どんどん先に進んでいくこともいいが、それは個人でできる。わからない子に教えることで、人間関係も学ぶことができる。</p>
市 長	<p>ご意見を3点頂いた。子どもが学校経営に参画する仕組みづくり、たくさん失敗できる学校環境にし、先生も見守る力をつけること、子どもたちがお互い</p>

	<p>教えあう環境づくりということであった。次の委員の提言をお願いする。</p>
委員	<p>連続した学びの保障の充実が、大川市の活性化、持続可能な発展のためにどう繋がるかという視点で考えた。</p> <p>市内にある大川樟風高等学校や国際医療福祉大学と更なる連携が取れないかと考えている。木工産業やインテリア産業、ユニバーサルデザイン等取り組まれているが、これらを小中学校から意識したような教育ができないかと考える。</p> <p>また、現在の義務教育制度も素晴らしいものだが、優れた才能・個性を伸ばすために、突出した教育ができないものかと考え、夢物語に近いかもしれないが、「フリーエージェント制」のような形が取れないかと思う。これは一時期増えていた「学校選択制」と似たものであるが、この制度は学校間格差、地域との関わり等の問題があり徐々に減少した。この問題を無くすためには、完全に学校を平準化するのか、逆に最初から差をつけてしまうかである。差をつけるというのは、進学に力を入れる学校、スポーツに力を入れる学校、文化・芸術に力を入れる学校等、大学の教養課程、専門課程のような制度を作り、高学年になり、一定の条件を満たせば、自ら望んだ教育を受けられるという制度はどうかと考える。</p> <p>もう一点は、現在学校の先生に疲労が見える。特に小学校では、1人1クラスの担任制であり、真面目な性格・考えをお持ちの先生が多いように見受けられ、残業が多く、有給休暇も取られていないのではないかと感じる。それを少しでも緩和するために、複数の先生でクラスを受け持つという形もいいのではないか。やはり子どもたちが憧れるような職業でなければ、「先生になりたい」という子ども、地元に残る子どもも増えていかない。</p>
市長	<p>委員からは高校・大学との連携強化、特色のある学校づくり、複数担任制という内容のご提言をいただいた。各委員の提言に対して質問等ある方はないか。</p>
委員	<p>先ほど提言があった複数担任制は私も同意見である。学年全体、学校全体で子どもたちひとり一人の情報を共有すると、指導する際も様々な形で指導ができるのではないか。また、先生同士が悩みを相談できると先生の負担も軽減できる。</p>
教育長	<p>専科の教員が1日特定の学校に出向いて授業をするという話があったが、その日は他の教員は時間が空くということか。</p>
委員	<p>専科の先生が教える学年以外の学年や他の学校では別の授業が行われることになるので、他の教員はその授業を教えることになる。</p>
教育長	<p>小学校の先生が中学校に行くということになれば、当然人手が足りなくなってくる。市費で雇うということも可能であるが、それだけでは足りない。その辺りはどう考えられるのか。</p>
委員	<p>次の議題にも関連してくるが、地域との連携ということで、元教員や学校関係者に協力をお願いできれば人材確保は多少可能ではないかと思う。子どもた</p>

	<p>ちの教育環境を整えたいという気持ちを市民に理解していただき、人材確保に繋げたい。</p>
市 長	<p>小中一貫型教育モデル事業推進委員の方にもお越しいただいているので、ご意見をお願いしたい。</p>
小中推進委員	<p>まず、小学校と中学校の教員の行き来は制度を整えば可能である。学びの接続という視点で教職員の交流ができると考えられ、それが学力向上につながっていけばということで今協議をしている。</p> <p>また、学校が抱えている課題としては、小学校で英語の授業が始まるので、その対応をどうするかということ。小学生に英語に慣れ親しんでほしいが、そこを先生に頼るのではなく、桐英中学校は同敷地内に中学生がいるので、児童生徒間交流を行い、お互いに学び合う形にできないかと考えている。</p> <p>子どもにとって、人の役に立っているということは次への意欲に繋がる。中学生が小学生に英語を教える機会があれば、中学生にとっても役立ち感が出てきて、小学生にとっても憧れになるのではないかと思う。そういった計画を小・中学校の先生が共に行うことにより先生同士の交流も図れるのではないかと考える。</p> <p>次は地域との連携についてだが、小・中一貫の学校へ視察に行った際に、その学校は部活動とは別に放課後の活動を行っていた。活動の内容としては、高校生や地域の方、元教員等が理科の面白実験や英会話講座を行っておられた。こういった活動は大川市でもよいのではないかと思い、話を進めている段階である。</p> <p>個人の意見としては、本市が抱える課題と合わせて考えたときに、本市では人口減少や産業の衰退が課題としてあげられ、地域に元気が出ないといけないのではないかと感じる。また、地域の方からは子どもの姿を見ると1番元気が出ると言われる。こういったことから私は、地域が元気になるためには、子どもがもっと地域の中心として目立っていくことが重要だと感じている。子どもが地域に出て、地域で学ぶ機会を増やすことにより地域を元気にしたい。また、地域の行事や市の行事に参加をすることにより、子どもにとっても役立ち感が得られるのではないかと考える。そのためには教育課程を少し変える必要が出てくるかもしれないが、地域と一緒にやって教育をできればと考えている。</p>
委 員	<p>子どもを学力だけで評価しがちであるが、主教科だけでなく副教科が好きな子どももたくさんいて、今は多種多様な生き方がある。興味関心があることに対して一生懸命考えることが重要であり、点数だけにこだわることは重要ではないのではないかと思う。</p>
委 員	<p>子どもが主役で主体的に学べる場所を提供することが大人の役割ではないだろうか。学ぶ環境をたくさん作ることにより、子どもが学びたいことを学べ、生き生きとすることが大事ではないかと感じた。</p>
市 長	<p>今回の話の中で教育課程を変える必要があるという意見が出たのは良いことであるとを感じる。大人の都合でできないとは言いたくない。学校は文科省の示</p>

	<p>した内容に従い、大人の都合のいい子どもに育ててきたように感じる。国が疲弊しているときは一丸となる必要があるので必要なことだったのかもしれないが、これから何が起こるかわからない時代に大人の言うことを聞いて働くことだけに利得を覚えるような人に育てるような教育は時代に合わない。</p> <p>宿題も、同じ漢字を何回も書くようなものは字の練習にはなるが、意味はあるのだろうか。書いて覚える子もいれば、見て覚える子、漫画で覚える子もいて、覚え方も様々である。</p> <p>試験も一夜漬けで勉強をするような形ではなく、教えてもらったときに試験をするほうがよいのではないだろうか。こういったことを大人も思っているが、何となく今までのままなのではないか。すべてを一斉に変えるのは難しいかもしれないが、我々が意識を持てば変わる。</p> <p>小学校の1人1クラス担任制は、先生にとっても子どもにとっても改善をする必要があるのではないだろうか。</p>
<p><b>3. 協議事項 (1) ②地域とともにある学校づくりの推進について</b></p>	
<p>市長</p>	<p>次に地域とともにある学校づくりの推進について委員のご提言をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>学校の先生だけでは子どもたちに対して十分な数ではない。コミュニティ・スクールの動きが始まっている学校もあり、そこでは当然地域と学校が親密な関係を構築することが求められるので、それにより、地域の方に学校に積極的に関わっていただけるようになることを期待する。</p> <p>また、学校の副教科の授業の中で、地域の方の力を借りて、音楽であれば曲を一曲作るなど、1年間を通して何かを作り上げるような授業をしてはどうか。本格的なものを作り、木工祭りなどの場で発表を行う。そうすることにより、子どもは達成感を感じ、教える側も教える楽しさを感じることができる。そういった形で地域と学校の繋がりを積み上げていけたらと考えている。</p>
<p>市長</p>	<p>次の委員の提言をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>まず、朝食を学校で提供してはどうか。保育園では実施している施設もある。大川市は朝食の摂取率がかなり低い。学校から保護者に対して働きかけをしているとは思いますが、この状況である。</p> <p>また、学校が提供をするのは金銭的な負担が大きいと思うので、地域で何とかしてもらえないかということ働きかけてはどうか。地域の農家からお米を提供してもらっているという話や、お米の消費が減り、余ってきている農家もあるという話を聞くので、そういったものを提供していただく。更に、コミュニティ・スクール内で朝食を作っただけの人を募ってみるのはどうか。朝食を食べる子どもは、食べない子どもより学力が5%高いと聞く。また、子どものころ朝食を摂る習慣を身につけると、大人になった後にも朝食を摂る習慣を続ける。朝食の提供は希望者だけになるとは思いますが、提案したい。</p> <p>次に、学校で幼児とふれあう機会を定期的につくってみてはどうか。自分の思うようにならない相手に対しての接し方や、人と人との信頼関係の構築の仕方を学べるほか、少子化対策にもなると思う。また、定期的に行うことにより、</p>

	<p>幼児と自分自身との成長の差を実感できる。強制的にはなく、お昼休みの時間などに、多目的教室等を利用し、自由に参加できるようにして交流の機会を与えてみてはどうか。</p> <p>次に、親が通える講座を開催してはどうか。子どもに勉強を聞かれたときに親は教え方がわからない。学校ではどういったことを教えているのか、家庭でどう勉強を教えたらいかなどを学べるような機会があればいいと思う。また、子育てスキルを教える機会を持ってはどうか。子どもに対して接し方がわからない親がけっこういるので、そういった人たちに学ぶ機会を与えられるとよいのではないかと感じる。</p>
市長	次の委員の提言をお願いします。
委員	<p>コミュニティ・スクールにより、地域の方が学校に入ってくる機会は増えると思うが、子どもたちが地域に貢献する機会を増やしてはどうか。</p> <p>中学生は特に部活動中心になってしまっていて、地域の行事があっても部活動があつて来られないと言われる。部活動と地域を絡めて、部活動単位で地域の行事に参加をしてはどうか。</p> <p>また、地域の高齢化も進んできている。地域のことを誰かがやってくれるだろうと他人事として考えてしまいがちだが、これからは自分事として捉えていかないといけない。また、老人など多様な人々とふれあう機会も必然的に増えてくると思うので、多様性を受け入れられるようになってほしい。</p> <p>また、地域のことを話し合う場が出てくると思うが、こう決まっているから、ということだけではなく、自分たちで決めていかなければいけないので、ファシリテーションスキルを磨くことが必要になってくる。</p> <p>すべてを自分事として捉えて、自分が地域や学校などの一員であり、周りと影響し合っていることを認識することが必要だと感じている。</p>
市長	次の委員のご提言をお願いします。
委員	<p>地域とともにある学校づくりの推進というのは、ふるさとに誇り、愛着を持つということにつながっていくとを感じる。いかに地域と深くつながるかで、愛着の度合いも変わってくる。学校で地域の行事に立ち上げから参加してはどうか。また、学校で職場体験があつていると思うが、自分たちで事業を立ち上げるような体験をさせてはどうか。なぜ売れないのか、どうしたら売れるのかを考えたり、実際にお金が入ってきたときの喜びなどを実際に感じる機会になるのではないだろうか。</p>
市長	社会教育委員の方から意見をお願いします。
社会教育委員	<p>連続した学びの保障の充実についてだが、小1ギャップや中1ギャップは全国どこでも存在するが、小中が連携をすればそういったことが少しは解消されるのではないかと感じる。小学校6年生は最高学年で、立派になったと送り出されるが、中学校1年生では、最低学年として迎えられるため、その認識の違いでギャップが起きているように感じる。小中連携はいい機会であるため、</p>



<p>社会教育委員</p>	<p>そこを改善できればと感じる。</p> <p>コミュニティ・スクールについて、社会教育委員も勉強会を開いている。子どもが地域に出て学ぶ機会が増えることは大切なことである。子どもが少なくなってきたため、地域と学校が連携をして子どもを育てていきたい。</p> <p>個人的には、子どもたちが米作りや伝統工芸などを実際にその場所に行き、学ぶ機会があればよいと思う。そうした中で実際どういった材料、技術でできているかを目で見て体験をすることでももの大切さを感じることができる。そういった経験がふるさとを思う人づくりに繋がっていくのではないだろうか。</p> <p>コミュニティ・スクールに関しては、組織づくりは大切だが、何をどのようにコーディネートしたら子どもにどういった結果が出るのかが大切であると思うが、コーディネートする人をどうやって見つけてくるかが難しいと感じている。</p> <p>また、地域の方にコミュニティ・スクールを説明し、理解してもらうことが難しく、課題だと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>学校という閉ざされた空間が、コミュニティ・スクールができ、子どもたちが地域にでることで、開かれた学校に変わってきている。</p> <p>しかし、コミュニティ・スクールに関わっている方はどういったものか理解されていると思うが、地域はそうでない方が大多数である。そういった方にコミュニティ・スクールについて説明をしても、なかなか思ったように伝わっていかない。きちんと相手に伝えるためのより良い方策があるのではないだろうか。</p>
<p>委員</p>	<p>老人会の集まりで学校を見に行き、知ってもらい、参加してもらいきっかけづくりをしてみてはどうか。</p>
<p>市長</p>	<p>地域総がかりで子育てをしていきたいが、実際初めてみると、先生にとって大変な部分や地域にも大変な部分が出てくると思う。</p> <p>30、40代が一番地域とのかわりが薄いように感じるが、かろうじて子ども会など、子どもを通して地域とつながっている。</p> <p>小1ギャップ、中1ギャップの話があったが、地域の方々は小学生になっても中学生になっても、いつもそこにいるので、そういったところから知恵を絞り出せないだろうか。</p> <p>学校から卒業するといきなり社会に放り出される。社会に出るといろいろな人がいる。いきなりそういった人たちとやっていくのではなく、地域でいろいろな人がいることに慣れさせることも必要だと感じる。</p> <p>みんなで知恵を絞ってやっていければと思うが、一番難しいと思うのは、先ほど委員のお話にもあった、衛生面や栄養面。これは人間以外どんな動物でも親の役目である。朝食を摂らないことによってどういったことが起こっているのかを発信してはいるが届いていかない。地域・学校で朝食を提供するというのは大事なことではあるかもしれないが、どうにかして親が食べさせるようにできないものだろうか。このことについては試行錯誤が必要であると感じている。学校からも発信はしているが、地域の方が言ったほうが効果的な場合もあるのではないかと感じる。地域と学校、親がより近づくことがこれから必要で</p>

	<p>はないだろうか。</p> <p>いろいろと申し上げたが、やれることからやっていければと思う。</p>
<p>4. まとめ</p>	
教育長	<p>様々のご提言をいただいた。</p> <p>まず、特色のある学校づくりをしようと思うと、現状ではとても時間が足りない。子どもは抵抗があるかもしれないが、夏休みを2週間に減らすと、かなりの時間が作れる。その時間を使えば特色のある学校づくりができるのではないだろうか。</p> <p>コミュニティ・スクールについては小・中一貫型教育モデル事業推進委員会には思い切った構想を打ち出してほしい。</p> <p>また、学校はコミュニティ・スクールでこんな特色ある学校を作りたいと地域と一緒に申請してもらいたい。</p>
委員	<p>時間がないという話だったが、單元ごとのテストにすれば、試験期間が必要なくなるので、改めて提案したい。</p>
市長	<p>中学校が2校同時に開校するというのは近隣ではないことだろう。そのスタートの年ということで、建物だけではなく、みんなで力を合わせて、大人の都合でやれないとは言わない教育を実現したい。</p>